

1 現行事業計画の量の見込みと実績

- 児童数が推計を下回った。(R4年度 現行事業計画：42,305人、実績：40,007人)
- 保育利用率について現行事業計画と実績を比較すると、全体では実績の伸びが計画を1.3ポイント下回ったが、1、2歳児については4.6ポイント上回った。
- R2年度と3年度において、申込者数が18,000人程度で横ばいとなった。新型コロナウイルス感染症感染拡大による預け控えが原因と考えられる。(R2年度18,129人、R3年度18,178人)
- R4年度には申込者数が18,431人と増加し、コロナによる預け控えは収まり始めたと考えられる。

区分	R1(実績)			R4(現行事業計画)			R4(実績)			児童数に占める割合		
	児童数	申込者数	児童数に占める割合	推計児童数	確保方策	児童数に占める割合	推計児童数	申込者数	児童数に占める割合	R4(計画)-R1(実績)	R4(実績)-R1(実績)	R4(実績)-R4(計画)
3号認定(0歳児)	6,470	1,223	18.9%	6,673	2,054	30.8%	6,189	1,290	20.8%	11.9%	1.9%	-9.9%
3号認定(1・2歳)	14,014	6,457	46.1%	13,782	6,862	49.8%	12,871	6,998	54.4%	3.7%	8.3%	4.6%
2号認定	22,703	9,821	43.3%	21,850	11,139	51.0%	20,947	10,143	48.4%	7.7%	5.2%	-2.6%
保育利用計(全市)	43,187	17,501	40.5%	42,305	20,055	47.4%	40,007	18,431	46.1%	6.9%	5.5%	-1.3%

2 見直し後の量の見込み

(1) 算出手順

- 「ニーズ調査」の結果に基づき、国の「市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引」(平成26年1月)により算出。
(家族類型による区分 ⇒ 保育の必要性による区分 ⇒ 潜在家族類型別児童数の算出 ⇒ 量の見込みの算出)
- コロナによる預け控えは、R5年度以降解消されるものと想定し、考慮しないこととする。

(2) 算出結果

【見直し後】

区分	R5		R6		児童数に占める割合	R6(見直し)-R1(実績)
	推計児童数	量の見込み	推計児童数	量の見込み		
3号認定(0歳児)	7,223	1,592	6,822	1,504	22.0%	3.1%
3号認定(1・2歳)	12,357	7,543	13,292	8,113	61.0%	15.0%
2号認定	20,469	11,426	19,545	10,904	55.8%	12.5%
保育利用計(全市)	40,049	20,561	39,659	20,521	51.7%	11.2%

【現行事業計画】

区分	R6		児童数に占める割合	R6(計画)-R1(実績)
	推計児童数	量の見込み		
3号認定(0歳児)	6,481	1,721	26.6%	7.7%
3号認定(1・2歳)	13,449	8,394	62.4%	16.3%
2号認定	21,087	10,849	51.4%	8.2%
保育利用計(全市)	41,017	20,964	51.1%	10.6%

- 人口推計の見直しにより、推計児童数が現行事業計画を下回っている。(現行事業計画41,017人、見直し後39,659人)
- ニーズ調査において、就労者・未就労者とも就労意向に大きな変化がなかったため、量の見込みは現行事業計画と同様の伸び方となり、保育利用計の伸び率は、11.2%となっている。
- 0歳児について、現行事業計画(7.7%)の半分以下の3.1%の伸びとなっているが、育児休業取得希望者の増による。
⇒ 現行事業計画及び実績と比較しても、上記「量の見込み」はおおむね適正な範囲内と考えられる。

3 現行事業計画の確保方策と整備実績

R4年度において、整備実績(定員数19,099人)は確保方策を下回った(△956人)ものの、定員弾力化により、待機児童3年連続ゼロを達成している。

区分	R1	R2	R3	R4	R4-R1増減	
計画	量の見込み	17,364	22,061	21,915	21,601	4,237
	確保方策	18,017	18,569	19,307	20,055	2,038
	整備量(前年度)	1,321	552	738	748	
実績	申込者数	17,501	18,129	18,178	18,431	930
	定員数	17,802	18,569	18,963	19,099	1,297
	整備量(前年度)	1,266	767	394	136	
待機児童数	4	0	0	0		

4 見直し後の確保方策

(1) 基本的な考え方

- R2年度及びR3年度の2年間、コロナによる影響で、保育需要の増進が停滞したことを踏まえ、現行事業計画の2年後であるR8年度に、各区の定員数において量の見込みを満たすことを目指す。
- R8年度までに必要となる保育の受け皿1,754人分から、R5年度の整備見込み(399人分)を除いた1,355人分について、R6年度に約4割の565人(現行事業計画539人とほぼ同じ)、R7年度に約4割、R8年度に約2割分を整備する。
- 整備については、保育園、認定こども園、幼稚園など既存施設を最大限活用するとともに、それでは保育ニーズの増加に対応できない地域においては、施設等の新設を検討する。またR8年度時点で、全体の定員数では量の見込みを満たすが、年齢別では、1・2歳児の量の見込みを満たさない(△1,312人)ため、定員弾力化により対応する。(現行事業計画と同じ)

R5~R8計 1,355人

(2) 確保方策の算出

区分	実績				計画		想定		R6-R1増減
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
量の見込み(申込数)①	17,501	18,129	18,178	18,431	20,561	20,521	20,552	20,789	3,020
確保方策(定員数)②	17,802	18,569	18,963	19,099	19,498	20,063	20,553	20,853	2,261
整備量(前年度)	1,266	767	394	136	399	565	490	300	
量の見込みと確保方策の差②-①	301	440	785	668	△1,063	△458	1	64	
うち3歳以上児	375	497	757	877	△141	700	1,383	878	
うち1・2歳児	△575	△603	△596	△747	△1,195	△1,567	△1,869	△1,312	
うち0歳児	501	546	624	538	273	407	483	493	

5 1・2歳児のさらなる受け皿確保

定員弾力化だけでは量の見込みを吸収できないと考えられることから、新たに期間限定保育制度の導入を検討する。
※期間限定保育…定員に満たない5歳児等の保育室を利用して、1歳児・2歳児について、1年間または2年間の期間限定で保育を行う仕組み。詳細は今後検討。

6 量の見込みと確保方策(グラフ)

